

# 箱根ヶ崎獅子舞保存会 & 町議会

獅子舞は古来より伝わる由緒ある芸能で、江戸時代の初期に始まったものといわれています。狭山神社や加藤神社の祭礼に奉納し、また、五穀豊穡や雨乞い、家内安全を祈願するなど多くの人々に親しまれてきた獅子舞の保存と後継者育成に尽力している「箱根ヶ崎獅子舞保存会」の皆さまにお話を伺いました。

## 「一緒にやんべえよ」

Q 保存会設立のきっかけは？

―これまで受け継がれてきた歴史を絶やしてはいけないとの住民からの強い要望があり、狭山神社総代や町内の方々との協議を重ねた結果、昭和44年に後援会が組織され、保存会が結成された。

Q 獅子舞はどのように舞うのですか？

―棒使い、笛、唄、獅子の4つのパートがあつて、舞台を清める役割の棒使いを先頭に、笛と唄に合わせて獅子が舞います。

Q 保存会に入ったきっかけは？

―町内を舞う獅子や笛の音にひかれて始めた。その後、設立に関わった。

―初めは夏祭りの祇園囃子を頼まれて出たら、「獅子舞もあるから」と誘われて、何回か見学させてもらううちに、ああ自分にもやれそうだと思ったから。

―獅子舞をやっていた父が亡くなったとき、親孝行をできなかったなあと思い、父の遺志を継いで、親孝行したいと思った。子どものころ、獅子舞の行進する姿を見て、笛を覚えたいなあと思っていた。そ

に相談したら「一緒にやんべえよ」と声をかけられて。

Q どんな活動をしてきたんですか？

―二三年前までは、狭山神社での奉納、町の文化祭、産まつりなどに参加していた。参加することが決まると、土日集まって練習した。

―けやき館のオーピングでも舞った。東京都民族芸能大会で池袋の芸術劇場で舞ったこともあったし、NHKの番組で舞ったこともあったなあ。  
―獅子を舞える人がなかなか来られないので、練習は各自で。  
―継承してくれる人材探しとあって、学童保育クラブなどに行って話をしています。

Q 良かったこと、大変なことは？

―「棒使い」はセリフがあつて舞うんだけど、一つ一つの動きに、意味があることを学んで、すごく勉強になった。  
―笛を初めて三年だけど、いまだにうまく音が出ない。(笑)  
―私も「棒使い」をやってるんだけど、セリフがなかなか覚えられない。  
―この活動をしていることを知って、すごいねって驚かれることがあるけど、ちょっとうれしい。



の話をしたら、福島さんのお父さんがすぐに笛を貸してくれて、練習しに行っていたら、そのまま、ずるずる40年。

―獅子舞のことを詳しく知りたくて見学に訪れた時、節目の一五〇年が間もなく訪れると聞いて、式典や記念誌づくりをしようと思いました。そして、そのままスカウトされて。(笑)

―本を参考に笛を作るのが趣味で、短い笛は音が出て面白かった。ところが、長い笛を作ったら音が出ないので、田中さん

―日の出インターの開設の時とか拝島大師など、町外で披露することもあった。その時、ほかの地域でも同じようにがんばって活動している人達に出会えたことが良かった。

―やっぱり、後継者がいないことが一番の悩み。子どもや若い人に伝えたいんだけど…。

Q 獅子舞保存会のPRを。

―町の無形民族文化財に指定されている歴史のある獅子舞です。大切に継承していきたい。  
―初心者、子どもたちも大歓迎です。ぜひ一緒に獅子舞を舞いましょう。

Q 議会、「ギカイのひろば」の印象は？  
―読んでますよ。

―何のための冊子なのか、分かるようにしたいと思う。

参加してくださった箱根ヶ崎獅子舞保存会の皆さん、ご協力ありがとうございました。



(後列左から) 栗原 孝二さん 福島 政夫さん 内出 道男さん  
(前列左から) 久保田 吉範さん 須賀 省三さん 田中 永造さん